



ローターアクトの目に因んで



地区RA委員長
安藤 二郎
(防府南RC)

この1年、多くの方達のご指導、ご助言をいただき、どんなに心強く思ったことでしょうか。折角の機会ですので、それらの一部をご紹介します。ローターアクトの現況やら、将来への展望やらをそれぞれの立場でお考えいただく資料にしていればと思います。

1. ロータリーにとって

ローターアクトクラブとは何か

1978年7月(ちょうど20年前です)第271地区RA委員会では

『ローターアクトとは(若者達の社会参加の場である)』という冊子を発刊している。筒井敏雄さんという方が委員長です。RIがRACを発足したのが1968年ですから、この年はちょうど10年目のことです。この冊子の中で『若い彼らの自主性を尊重して…という建前論を尊重して放任型をとっているクラブ、形式的な触れ合いだけにとどまっているクラブではやはりローターアクトの方も成長が鈍化しているようです』と言っておられる。

現在に戻って、呉RCの林潤彦さんは「RAC活動の衰退とその対策」という自らの小論の中で次のように述べておられる。

『ローターアクトクラブの設立コンセプトは、地域社会で発生する諸問題をその都度取り組んで活動する「奉仕そのものを目的とした奉仕団体」ではなく、あくまでもロータリーの「奉仕の理想」に基づいて「若いリーダーを養成する教育機関」であり、しかも社会経験豊かなロータリアンが世界的な規模でスポンサーしているという、世界最良のシステムであることをよく認識しなくてはならない』

また、第2650地区前年度RA地区委員長 石川公三さんは自らの小論「ローターアクトクラブ健全育成のための私見」の中で次のように述べておられる。

『RIはRCの実態に反して制度を改編してしまった。例えば、地区RA指導者講習会の主催者を地区RA委員長からRA地区代表に移した、また、RA会合における

RA委員出席の義務が消えた、等RAの育成方法を育成方式から放任方式に転換しはじめた。RA会員の在籍平均年数はせいぜい2年程度ではなかろうか、そうした会員に対し「自主性」の美名のもと「放任状態」にしておいて指導者育成どころではないのである』

2. ロータリーは「青少年健全育成」という課題に真剣に取り組む意志があるか

第2650地区バスターRA委員長 森口庄左衛門さんは「全国ローターアクトクラブ研修会に参加して思う」という小論の中で、ローターアクトクラブの「全国地区別組織ランキング」というおもしろい試みをしておられる。地区別に、クラブ数、会員数、1クラブ平均会員数、提唱率、この四つのデータからランキングする、というものである。これによると、当2710地区は全国総合で第6位であり、そう悪い数字ではない。しかし地区内71RC中たったRAC14クラブの提唱という、20%の提唱率の地区ですら総合第6位である。全国34地区の惨憺たる状況が理解できるというものであろう。

再び、京都の石川さんの小論で「ローターアクトの育成は全ロータリアンが We serveの心でアクトに接し、根気強く、温かく、しかも長期育成計画をもって育て上げなければ、ロータリーが期待するような、次世代を担えるリーダーは育たない、ということです。アクトを取り巻くごく一部の人がその気であっても、I serveが大勢であれば熱心な一部の人もささえきれなくなるでしょう」と述べロータリアンの奮起を促しておられる。

同じように呉の林さんも「RACが衰退している原因」の中で ①ロータリアンの心構えの低下 ②責任感の低下 ③RAC設立コンセプトの不理解 ④現代若者の研究不足 ⑤RAC運営に対する情熱の欠如 といったことについて詳細に分析され、今こそローターアクトにとって必須のことは「ロータリアンの意識である」ことを熱誠をもって述べられている。

3. 広く議論をおこしてRACを提唱しよう

第2660地区バスターガバナー 菅生浩三さんは自らの著書「ロータリー随想」('93年4月初版)の中で次のように訴えられている。

『「綱領」「サービスの理念」「四つのテスト」などに集約されているロータリーの思想の存在意義が、今日ほど強調され、期待される時代はないのではないかと思う。何故ならば、ロータリーこそは、現実の社会にしっかり

と根をおろしつゝ、根底から人の心を扱うものであり、これ以外に人間社会を現在の破滅的状况から救う手段はありえないかも知れないからである。』

すぐ後からやってくる次世代の若者達の中に、今こそロータリーの灯を点火させようではありませんか、そうすることが「現代社会の破滅的状况」を後世にまで及ばさなくてすむ、我々ロータリアンのつとめではないでしょうか。ことしのRA海外研修(シンガポール)で示し

たローターアクターの「動き」は絶賛に値し、彼らが確実に成長していることがわかり、次世代への期待をもたせるにふさわしいものでした。若者達は「しかけ」を待っています。「しかけ」さえあればいくらでも順応し成長する力を持っています。

まだ「提唱」に足踏みしている多くのクラブの皆さん、これを機会に多くの議論をおこして、「ローターアクト提唱」を試み、次世代への希望を繋ぎましょう。

